

## 手稲山山頂のハイマツ分布域での花粉分析について

札幌市 星野フサ・石狩市 佐藤広行・札幌市 吉中弘介

### Abstract

*Pinus pumila* is growing slightly at the top of Mt. Teine. We collected samples under *P. pumila* and analyzed pollen. As a result, the age was unknown because the soil was thin, but it was suggested that *P. pumila* is a relic of the Ice Age. In addition, spore of *Sphagnum* sp. and pollen of *Lysichiton camtschatcensis* which are wet plants that can not be seen at present were observed. Thus, it was suggested that the vicinity of the top of Mt. Teine had an environment that wet plants and *P. pumila* grew in a few hundreds years.

### はじめに

北海道植物友の会が2005（平成17）年9月に実施した手稲山北東斜面（図1）の植物観察をきっかけとし、筆者は手稲山での表層堆積花粉と周辺の植生との関係について調査を行ってきた（星野2007、2008、2009）。この研究で設定した方形区の起点はスキーリフトの下の標高629m、ロープウェイ山頂駅から北東におよそ600mの地点である（図2★マーク）。

その中に1m方形区をさらに設定し表層堆積花粉を調べたところハイマツの花粉が

5%観察された（星野2007、2008）。この調査区周辺にハイマツは生育しておらず、ハイマツ花粉の由来が不明であったが、2013年10月に北海道植物友の会の長野満・武田治子会員から手稲山山頂部にハイマツ群落が分布していることを御教示いただいた。そこで手稲山山頂部の過去の植生変遷を分析するため、2018年8月8日に手稲山山頂部のハイマツ群落周辺で植生調査と花粉分析を行った。その結果について報告する。

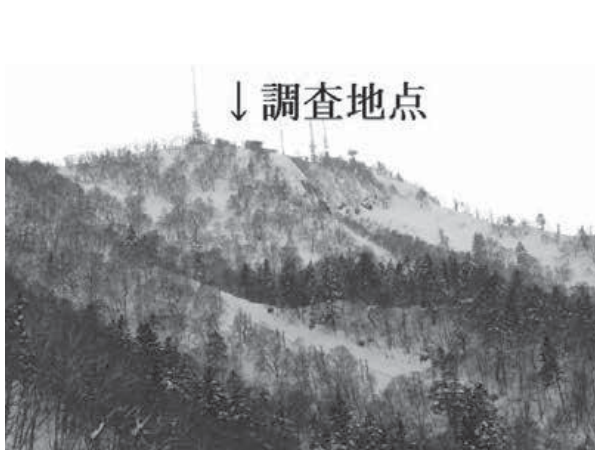


図1 標高600m付近から調査地点を遠望 2011.2.22

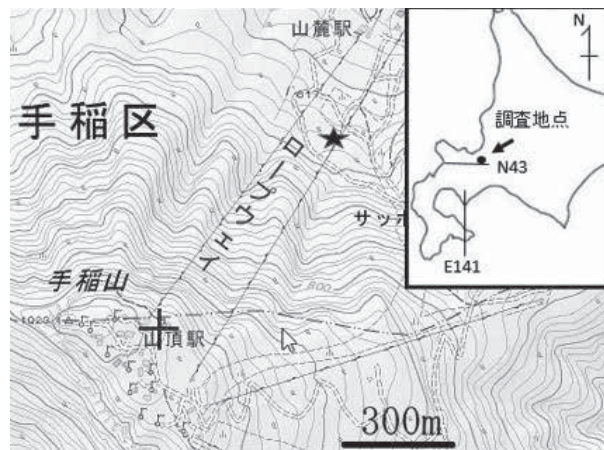


図2 調査地位置図：調査地点+印